

## 調査研究にご協力下さる皆様へ

【研究のテーマ】私設心理相談室における短期療法の包括的研究をテーマとして調査を行っています。

【研究の目的】包括的研究のため、研究の目的は複数あります。ひとことで言うと、カウンセリングにはどのような効果があるのかを解明することです。具体的には、私設心理相談室における短期療法が相談者の気分・感情・認知(知覚・思考)・行動などに及ぼす影響を解明すること、セラピストの介入法と相談者の変化との関連性を解明すること、短期療法の有効要因を解明すること、肯定的及び否定的な心理学的諸因子の影響関係と回復に伴う肯定的な心理学的諸因子の作用機序を解明すること、心理学的諸概念を臨床的に解明することなどを研究の目的とします。

【研究期間】この研究は長期にわたるもので、2018年4月1日から2030年3月31日の期間で実施されます。研究者が現在勤務している北星学園大学を65歳で定年退職するまでとなります。

【研究者と研究の場所】研究者氏名：田澤安弘(北星学園大学社会福祉学部福祉心理学科教授)。場所：自宅に併設された私設心理相談室「のっぽろカウンセリング研究室」にて行います。住所：北海道江別市野幌屯田町3番地の12

【対象者】研究の対象者は、さまざまな困難を抱えており、心理カウンセリングを希望する方となります。ご家族ではなく、ご自分の相談に限ります。また、来談時に心療内科クリニックなど他の医療機関及び相談機関を利用していない方を対象としますが、利用経験がある場合には、そこに通わなくなってから六か月以上経過していることが必要です。

【研究の方法】カウンセリングを希望する方を対象として、回数の制限された短期療法を行います。基本的には4回、3カ月程度を見込んでいます。詳細については別紙を参照ください。分析の方法は、集団を対象としたものと個人を対象としたものがあります。前者はカウンセリングのプロセスで自己回答式の心理テストを複数回行い、数十人のデータを統計処理します。後者は、自己回答式の心理テストを毎日行い、すべてのデータを時系列分析によって処理する単一事例研究です。

【研究の中止】研究期間の全体を通して、カウンセリングを中断する人の人数比率と、不安を測定する心理尺度の改善率をモニターします。研究の途中でカウンセリングを中断する人が30%を超えたときか、不安の改善率が50%を下回ったときに、研究自体を中止します。というのは、相談者にとってリスクがあるか、効果がないと判断されるからです。本研究に先立つ53人を対象としたパイロット研究では、ドロップアウト率17.8%、不安の改善率68.9%の結果が出ています。

研究参加にあたり、以下の内容をご確認下さい。

### 【基本的留意点】

- ・研究への参加は自由意思に基づくものであり、カウンセリングを途中でやめたとしても、不利益を受けることは一切ありません。
- ・研究参加に同意したあとでも取りやめることができます。同封の同意撤回書にご記入いただき、郵送先に返送下さい。
- ・薬物療法など、医師が行う精神医学的治療ないし医療行為は行いません。臨床心理学的な援助ないし心理カウンセリングを行います。また、本人が望む以上のことは、説明と同意なしに決して行いません。
- ・相談者にとってカウンセリングが有害であると判断された場合、すべての行程が終了する前に中止することがあります。その場合には、適切な相談機関をご紹介します。
- ・守秘義務を順守してプライバシーを保護します。しかし、自傷他害など生命にかかわる問題が発生したときや、裁判所や警察などの公的機関から情報を求められた場合には、本人の承諾なしにしかるべき機

関に情報を提供する場合があります。

#### 【データの使用】

- 毎回カウンセリングの場面を録画および録音させていただきます。映像と音声はデータとして分析され、研究に使用されます。また、何種類かの心理テストを複数回行います。これもデータとして分析され、研究に使用されます。
- 録画・録音された映像と音声は、学会発表の際に使用されたり、教育目的で使用されることもあります。具体的には、専門家が参集する学会会場で上映されたり、研究者の勤務校である北星学園大学の「社会福祉学部福祉心理学科」および「大学院社会福祉学研究科修士課程臨床心理学専攻」の授業で教材として使用される場合があります。その際にはプライバシーが保護されるように、映像と音声にはさまざまな処理が加えられます。録画された映像はモザイク処理を施して表情の判別を不能にし、録音された音声は個人が特定される情報が含まれる部分を無音にして使用します。
- データを分析する段階で、心理学者や心理士など、複数の共同研究者が参加する場合があります。その際には、氏名や住所などの情報が分からないような形にしてデータが共有されます。共同研究者として予想されるのは、橋本忠行氏(香川大学：専門は臨床心理学)、近田佳江氏(トポス心理療法オフィス：専門は臨床心理学)、眞嶋良全氏(北星学園大学：専門は認知心理学)などです。
- 研究の成果は、心理学系の学会等での発表を考えています。その際、個人が特定される情報を公表することはなく、個人情報を守られます。個人を対象とした事例研究を行う際には、カウンセリングのなかで話された内容を改変して、本人が特定されないようにします。

#### 【データの保管】

- 入手されたデータは研究者が責任をもって厳重に管理し、氏名や住所などの情報が外部に漏れることがないように十分留意します。また、プライバシー保護についても細心の注意を払います。
- 入手されたデータ等は、研究終了後5年間保存させていただきます。同意が得られた場合に限り、新たな研究を行う際の貴重な情報として利用させていただきます。また、保管期間終了後はすべてのデータを廃棄します。情報はコンピューターから削除し、心理テスト結果やアンケート等はシュレッダーにて裁断します。なお、この研究に参加する同意を撤回された場合には、データ等は直ちに廃棄させていただきます。最後に、万が一、研究者が不慮の事故などにより研究期間の途中で死亡するなどした場合には、研究者が保管するすべてのデータを、信頼し得る共同研究者が適切に廃棄するようにいたします。

#### 【利益相反】

- この研究は、特定の企業等から支援を受けて行うものではありません。
- この研究では、研究者と研究対象者とのあいだに相談者とカウンセラーという別の関係(多重関係)が発生します。一般的には研究者が研究対象者に謝礼を支払い、相談者がカウンセラーに料金を支払います。解決策として、謝礼とカウンセリング料を無料にして、互いに金銭の授受を行わないことにします。

以上です。ご協力いただける方は、同意書へのサインをお願いいたします。また、この研究に関する疑問等がございましたら、いつでも下記連絡先へお問い合わせ下さい。

#### <連絡先>

のっぽろカウンセリング研究室 電話 ; 011-398-3235

研究責任者 田澤安弘